



# 終生飼育

16,155匹。これが何の数字かわかりますか？  
これは平成19年に福岡県で殺処分された犬猫の数なのです。  
いま一度、飼い主の責任について考えてみましょう。



## 現 状

福岡県は、犬・猫の殺処分数が3年連続日本一という不名誉な記録を持っています。

以前と比べると、殺処分される数は、減少傾向にあります。処分数が多い原因の一つに無計画な出産があげられます。



## 最低限の責任

犬・猫の妊娠期間を知っていますか？

犬・猫の妊娠期間は約60日で、犬は年2回・猫は年3回ほどの発情期を迎えます。猫が一回の妊娠で5匹の子どもを生むと仮定すると、多いときで、年に15匹も生んでしまう計算になります。

その結果、そのようにして生まれた犬・猫が飼えないからと保健福祉事務所(旧保健所)に連れてこられるのです。

では、そういった犬・猫を少しでも減らす方法はないのでしょうか？

解決には、まず避妊手術・去勢手術を行うことが大切です。

避妊手術・去勢手術は、確かに費用がかかります。しかし病気の予防にもなるだけでなく、不幸な命を少しでも減らすために、飼い主に課せられた最低限の責任なのです。



## いぬ・ねこの譲渡会

田川開業獣医師会では県の保健福祉事務所と共催で、処分される犬・猫の数を少しでも減らそうと、平成13年から「いぬこねこの飼い主さん募集」という犬・猫の譲渡会を開催しています。

毎年11月に開催され、9回目となる今回は、持ち込まれた37頭の犬・猫に対して、22頭が新しい飼い主に引き取られました。

当初と比べると、譲渡会に持ち込まれる犬・猫の頭数は年々減ってきており、このことは少しずつ避妊手術や去勢手術をする飼い主が増えてきているのだと考えられています。



## 終生飼育

犬・猫は平均15年くらい生きると言われています。もし、今から犬・猫を飼おうとしている人は、15年後の自分の姿を想像して見てください。生活環境が変わることが考えられるなら、その時、飼っている犬・猫はどうしますか？

「子犬・子猫を一匹飼うということは、小さな子どもを一人育てるのと同じことなのです。自分の子どもと同じように、病気の看病や最低限の治療を施すのは飼い主の責任です。終生飼育と言われるように、一度飼いはじめたら一生飼ってあげてください。それが動物にとっても、飼い主にとっても一番幸せなことなのです」と田川開業獣医師は話します。

# ● 狂犬病は恐ろしい病気です ●

飼い主の責任として 年1回のワクチン接種を！

「狂犬病のワクチン接種率が低下してきているんです」と話すのは、福岡県田川保健福祉事務所保健衛生課の真鍋修一係長。

狂犬病は、狂犬病ウイルスを病原体とするウイルス性の感染症で、人を含めたすべての哺乳類が感染します。この病気の恐ろしいところは、発症すると、ほぼ100%の確率で死に至ることです。

日本では海外滞在中に犬にかまれ発症し、死亡した事例が3件ありますが、国内では1954年を最後に人の狂犬病は確認されていません。しかし世界に目を向けると、全世界で約5万人が狂犬病により命を奪われているのです。

海外から入ってくる動物については、国の検疫を受けるので、国内にウイルスが入る可能性はほとんどありませんが、密輸などによる違法な手段によって動物が持ち込まれ

た場合、かなりリスクが上昇します。

しかし、仮にウイルスが国内に入っても、日本の犬の約7割がワクチンを接種していれば、病気のまん延を防ぐことができると言われていますが、実際その数には届いていないのが現状です。

「狂犬病は恐ろしい病気です。いつ国内で発生してもおかしくないということをもう一度再認識し、飼い主の責任として年1回のワクチン接種をお願いします」と真鍋さんは話します。

